

よむよむNEO No.4

R2.4.17(金)



うーちゃん すごい!
つよいこね!

「うずらのうーちゃんの話」
はなし
かつやかおり・作
(福音館書店) えほん



わかりましたよ。
飼えばいいんでしょ。飼えば。

「天邪鬼な皇子と唐の黒猫」
あまのじやく おうじ どう くろねこ
渡辺仙州・作 (ポプラ社)
NDC. 913

「なんのようだ。こっちへくるな。し、し、し！」
定省は追いつくように手を振った。
ふん、これでも食らうがよい!

おれさまは 定省のひざに頭をこすりつけ、ゴロゴロとのを
鳴らす。若造よ、人間のよこばせ方を熟知したおれさまに
勝とうなどとは笑止千万。おれさまの可愛らしさに
あらがうことは容易でない。蘇州でこの技を披露して
おれさまをなでなかつた人間はいないのだ……

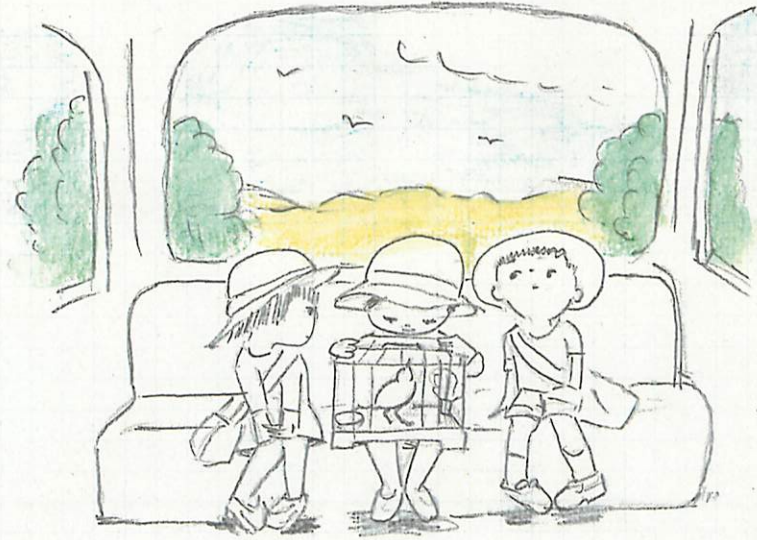
痛快! 唐から渡った人語を話せるネコと皇子の奇妙な同居生活が
ネコ目線で軽妙に語られる。

宇多天皇「寛平御記」の一節をモチーフに描いた異色の歴史×ネコファンタジー。
(皇子は御記の中で、天皇から賜った黒猫のことをほめちぎっておきながら、
最後に「別に好きで飼っているわけではない」などと言いついておきながら、
ネコ愛好家の間では「ツンデレ日記」としても有名なんだって……)

物語には、かの菅原道真公も登場!
ファンタジーでありながら史実がベースになっているので、い、そう面白いです。

ぼくが幼稚園からもらってきたうずら。
「うずら野うーちゃん」と名前をつけて
ぼくは、いっしょうけんめいお世話をしました。
せまいかごが大きらいて、はねをまきちらして大あばれする
うーちゃん。たのしそうにすなあびをするうーちゃん。
せわしなく歩き回って、庭のクローバーをおいそうに
ついばむうーちゃん。
ぼくはうーちゃんのことをかわいくてたまりません。
しかしあるときたいへんなことがおきてしまいました。

うーちゃんをいっくしむぼくの目線のなんとやさしいこと。



私にとって
宝物のような
一冊です。